

「総合的な探究の時間」 Q&A

探究の4つのプロセスに関する疑問について、Q&Aの形でお答えします。

①課題の設定について

Q 「実社会や実生活と自己との関わりから、自ら問いを見だし、課題を設定する」とありますが、具体的にどのような課題を設定すればよいですか。

A 例えば、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の進路に関する課題などがあげられます。その際、生徒が、自分の現実の状況と理想の姿との対比により、現実の状況との「ずれ」や「隔たり」を明確にして、その問題状況を改善するために課題を設定することが大切です。例えば、過去や未来の時間軸による視点、他の地域や国などの空間軸による視点、自分以外の専門家の方々や地域の大人などの立場軸による視点など、様々な視点で現状を分析できます。そうすることで、生徒にとって身に迫った、切実感のある課題になっていきます。

Q 「生徒が十分な時間をかけたり、繰り返し検討したりして、価値のある課題を設定する」とありますが、課題の設定にどのくらいの時間をかければよいですか。

A 高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編には、「単元の総時数の3分の1程度を当てることも考えられる」とあります。十分な時間をかけて一人一人の生徒にとって価値のある適切な課題を設定することが大切です。

②情報の収集について

Q 「観察、実験、見学、調査、検索、追体験など、多様な情報収集活動」とありますが、生徒が実際に情報を収集する際、インターネットを使うことが多いです。どうすればよいですか。

A どのような学習活動を行うかによって収集する情報の種類が異なるということをお覚する必要があります。調査や実験の場合は数値化した情報、インタビューや文献、インタビューの場合は言語化した情報、見学や体験の場合は主観的で感覚的な情報が得られます。多様な情報を収集することで、課題の解決や探究活動を質的に高めることができます。

Q 「収集した情報は、適切に蓄積できるよう環境を整える」とありますが、具体的にどのようにすればよいですか。

A デジタルデータなどの様々な形のデータは、収集した場所や相手、期日などを明示して、ポートフォリオやファイルボックス、コンピュータのフォルダなどに蓄積できます。また、体験活動を行ったときの感覚やそのときの思いなどは忘れてしまうことが多いので、作文やカードなどで言語化して、それ以後使える形で蓄積しておくことも必要です。

③整理・分析について

Q 「必要な情報を取捨選択し、順序よく並べるなどして整理する」とありますが、どのようにすればよいですか。

A どのような方法で情報の整理や分析を行うのかを決めましょう。数値化された情報であれば、統計的な手法でグラフに表し、標準調査の考え方を利用して母集団の傾向を探ることや、表計算ソフトを使って情報を処理することもできます。言語化された情報であれば、カードにして整理する方法、出来事を時間軸で並べる方法、調査した結果をマップなどの空間軸に整理する方法もあります。

Q 「考えるための技法」とありますが、具体的にどのような方法がありますか。

A 「考えるための技法」とは、考える際に必要になる情報の処理方法を、様々な場面で具体的に使う技法です。それらの技法には、「比較して考える」「分類して考える」「序列化して考える」「類推して考える」「関連付けして考える」「原因や結果に着目して考える」などがあります。その際、図や表を使って思考を可視化するなど、思考ツールを活用することも有効です。
(高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編、p.95~p.98「4 考えるための技法の活用」参照)

④まとめ・表現について

Q 「相手意識や目的意識を明確にして、内容をまとめたり表現したりする」とありますが、なぜ必要ですか。

A 誰に伝え、何のためにまとめるのかによって、まとめや表現の手法は変わり、生徒の思考の方向性も変わるからです。相手や目的を明確にすることで、生徒の既存の経験や知識と、学習活動により整理・分析された情報とがつながり、一人一人の生徒の考えが明らかになったり、課題がより一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりします。

Q 「他者に伝えるための具体的な手順や作法」とありますが、どのようなことですか。

A 論文やレポート、活動報告書としてまとめて表現したり、ポスター形式でまとめてディスカッションしたり、写真やグラフ、図などを使ったプレゼンテーションとして表現したりすることなどが考えられます。論文やレポートなどの場合は、「研究テーマ」「目的」「方法」「実験や調査の結果」「考察」「参考文献」などの項目を設けて論理的にまとめることが必要になります。

探究の4つのプロセス全体について

Q 探究をより質の高いものにするには、どうすればよいですか。

A 「探究の過程を高度化すること」「探究が自律的に行われること」、この2つが必要です。そうすることで、生徒がよりよく課題を発見し解決していけるようになります。

探究の高度化

探究の過程が高度化する	整合性	探究において目的と解決の方法に矛盾がない
	効果性	探究において適切に資質・能力を活用している
	鋭角性	焦点化し深く掘り下げて探究している
	広角性	幅広い可能性を視野に入れながら探究している
探究が自律的に行われる	自己課題	自分にとって関わりが深い課題になる
	運用	探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる
	社会参画	得られた知見を生かして社会に参画しようとする

探究の自律化

自分を見つめる学びの可能性！ “変わる”を楽しむ chance！！ 探究リーフレット

生徒たちと一緒に

先生方も探究を楽しんでみませんか？

【付記】

本ガイドは、令和4年度の福島県教育センター調査研究課題「一人一人の資質・能力の育成を目指す総合的な探究の時間の在り方」の研究成果の一部を基に作成したものです。

福島県教育センター 研究紀要

検索



この「探究リーフレット」は、総合的な探究の時間の、生徒たちの探究の学びに伴走して先生方も一緒に楽しむことができるように、探究の4つのプロセスにおける指導法やそのポイントについて提案するものです。

探究とは？

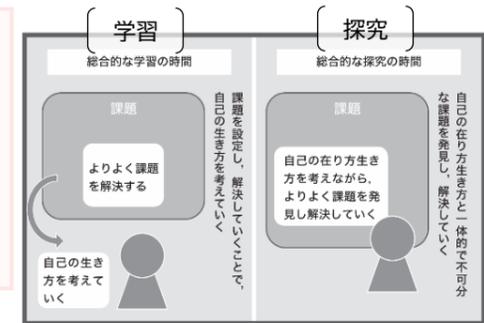
「探究」とは、「問題解決的な学習が発展的に繰り返され、物事の本質を自己との関わりで探り見極めようとする一連の知的営み」のことです。



小・中学校の総合的な学習の時間との違いは？

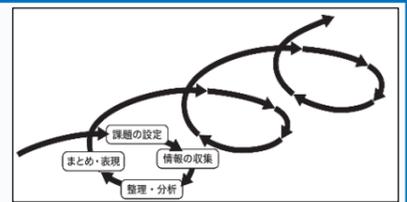
最も端的に表れているのは、**課題と自分自身との関係**です。
小・中学校 総合的な**学習**の時間は、課題を解決することで自己の生き方を考えていく学びです。
高等学校 総合的な**探究**の時間は、**自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題**を自ら発見し、解決していくような学びです。

「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」より



探究のプロセスとは？

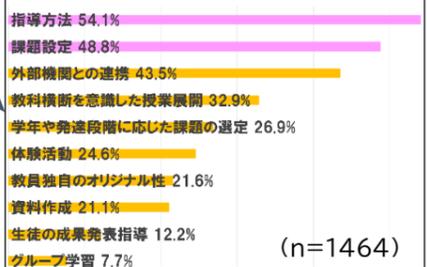
- ①【課題の設定】 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ②【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③【整理・分析】 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④【まとめ・表現】 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する



県内の高等学校の先生を対象に、総合的な探究の時間に関する意識調査を実施しました(令和4年度)。「総合的な探究の時間の学習において、授業をする上で難しいと思う点は、どのようなことですか」という質問に対して、右のような回答をいただきました。

このことから、総合的な探究の時間の「指導方法」、特に「課題設定」の指導方法に難しさを感じている先生が多いことが分かりました。

総合的な探究の時間 指導上の困難



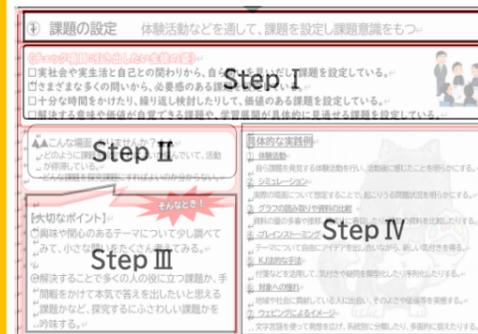
【探究リーフレットの使い方】

Step I <チェック項目:引き出したい生徒の姿>で探究のプロセスごとに、生徒の姿で先生方の授業をチェック！

Step II ▲▲こんな場面、ありませんか？▲▲で予想！

Step III 「大切なポイント」を押さえて授業構想や授業づくり！

Step IV 具体的な実践例を参考にしながら、Step IIIの授業構想や授業づくりをさらに具体化！



「自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題」を設定するため、プロセスに入る前に取り組むとよい活動とは？

課題を発見するとは、生徒が自分と課題との関係を明らかにすること、実社会や実生活と課題との関係をはっきりさせることです。そこで、生徒が「自分とはどういう人間なのか」を知るために、自己分析を行うのも一つです。例えば、得意なことや好きなこと、子供のころに夢中になったこと、将来就きたい職業などを考える活動がおすすめです。そうすることで、「この課題は自分にとってどんな意味をもつのか」を明確にできます。

① 課題の設定 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ

《チェック項目：引き出したい生徒の姿》

- 実社会や実生活と自己との関わりから、自ら問いを見だし、課題を設定している。
- さまざまな多くの問いから、必要感のある課題を設定している。
- 十分な時間を確保して、繰り返し検討するなど、価値のある課題を設定している。
- 解決する意味や価値が自覚できる課題や、学習展開が具体的に見通せる課題を設定している。



▲▲こんな場面、ありませんか？▲▲

- ・どのように課題を設定すればよいか悩んでいて、活動が停滞している。
- ・どんな課題を探究課題にすればよいか分からない。

そんなとき！

【大切なポイント】

- 興味や関心のあるテーマについて少し調べてみて、小さな問いをたくさん考えてみる。
- 解決することで多くの人の役に立つ課題か、手間暇をかけて本気で答えを出したいと思える課題かなど、探究するにふさわしい課題かを吟味する。

具体的な実践例

- ▷ 体験活動
 - 自ら課題を発見する体験活動を行い、活動後に感じたことを明らかにする。
- ▷ シミュレーション
 - 実際の場面について想定することで、起こりうる問題状況を明らかにする。
- ▷ グラフの読み取りや資料の比較
 - 資料の量の多寡や推移、構成比に着目したり、複数の資料を比較したりする。
- ▷ブレインストーミング
 - テーマについて自由にアイデアを出し合いながら、新しい気付きを得る。
- ▷ KJ法的な手法
 - 付箋などを活用して、気付きや疑問を類型化したり序列化したりする。
- ▷ 対象への憧れ
 - 地域や社会に貢献している人に出会い、そのよさや価値等を実感する。
- ▷ ウェビングによるイメージ
 - 文字言語を使って発想を広げ、系統別に分類したり、多面的に捉えたりする。

探究のプロセスを繰り返し、課題の解決や探究の高度化・自律化*へ！ *裏面 Q&A 参照 →

④ まとめ・表現 気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し表現する

《チェック項目：引き出したい生徒の姿》

- 相手や目的を明確にして、内容をまとめたり表現したりしている。
- まとめ、表現したことを再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚している。
- 他者に伝えるための具体的な手順や作法を適切に身に付けている。
- 探究のプロセスを通して、自分自身を理解したり、成長を実感したりしている。



▲▲こんな場面、ありませんか？▲▲

- ・伝えたいことをどう分かりやすく伝えたらよいか困っている。
- ・発表を行うことが、活動のゴールになっている。

そんなとき！

【大切なポイント】

- 全体へ発表する前に、発表内容を他の生徒や教師に見てもらい、様々な視点でアドバイスをもらう。
- 全体への発表後、周りからの具体的な意見や助言から新たな気付きを得たり、次の課題を設定したりする。

具体的な実践例

- ▷ 様々な方法でまとめる
 - 文章や図表等を用いたレポート、仮説を立て論証していく論文、活動内容や成果をまとめる活動報告書、情報を再構成してまとめる新聞、多くの情報を一目で分かりやすくまとめるパンフレットなど、様々な方法でまとめる。
- ▷ 様々な方法で表現する
 - 多くの聴衆に一度に表現できるプレゼンテーション、ポスターを介して質疑応答や意見交換を行うポスターセッション、探究活動を振り返ったりその後の探究活動を展望したりする中間発表会や成果報告会、テーマについて異なる立場で議論するパネルディスカッション、テーマについて質問や意見を出し合いながら新しい考えを発見するシンポジウムなど、様々な方法で表現する。
- ▷ 様々な方法で成果物を作成・発信する
 - 具体的な商品開発やものづくりを行う制作活動、実社会や実生活の問題をテーマにしたイベントの企画や運営、演劇・身体表現・音楽表現・造形表現などを組み合わせる総合表現など、社会に貢献する形で表現する。

生徒が4つの探究のプロセスを繰り返していくとき、教師が担うべき役割とは？

教師が必要以上に課題設定や解決方法を教えるのではなく、生徒の主体性を生かした学習と教師の適切な指導のバランスを考えましょう。教師の役割としては、生徒の発言を傾聴して考えを引き出すファシリテーターを目指します。生徒の学習状況に応じて、「それはどういう意味？」と質問したり、「それはこういうことかな？」と掘り下げたり、「OOという視点で考えると？」と視点を与えたりして、生徒の思考を促すことが大切です。

② 情報の収集 必要な情報を取り出したり収集したりする

《チェック項目：引き出したい生徒の姿》

- 解決の方法を見通すことができるようにしている。
- 観察、実験、見学、調査、検索、追体験など、多様な情報収集を行っている。
- 収集した情報は、適切に蓄積できるように環境を整えている。
- 探究している課題の問題意識が高まるような情報収集を行っている。



▲▲こんな場面、ありませんか？▲▲

- ・どんな情報を収集するのか分からず、やみくもに調べている。
- ・インターネットで調べたことをそのまま写している。

そんなとき！

【大切なポイント】

- 課題に合った情報収集の方法を考えてから、収集を始める。
- 収集の方法のそれぞれの特性をよく考えながら、それらをバランスよく複数組み合わせ活用する。

具体的な実践例

- ▷ 観察・実験
 - 観察・実験などの客観的なデータを基に、考えを確かにする。
- ▷ インターネット
 - 膨大な情報源の中から目的に応じた情報を適切に取り出す。
- ▷ 図書館や図書室
 - 書籍等の検索方法を身に付けたり、学校司書等に質問、相談したりする。
- ▷ 電子メール・電話・手紙
 - 様々な立場の人々や直接会うことが難しい相手から必要な情報を得る。
- ▷ インタビュー
 - 専門家をはじめとする外部の人々の知見や体験談などの情報を得る。
- ▷ アンケート調査
 - 質問内容を端的にまとめ、答えやすい設問を用意し、多くの人から情報を得る。
- ▷ 講演会・フォーラム
 - 専門家の知見や研究成果を聞き、言語化された情報などを得る。

← 振り返りの場を計画的に位置付けて、学びの意味付けや価値付けを生徒へ促し、自覚ある自己変容を！

③ 整理・分析 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

《チェック項目：引き出したい生徒の姿》

- 課題解決に必要な情報を取捨選択し、順序よく並べるなどして整理している。
- 整理した情報の傾向を読み取ったり、因果関係を見つけたりして分析している。
- 情報を分析し意味付けるために「考えるための技法」*を活用している。 *裏面 Q&A 参照
- 探究のプロセスを振り返り、自身の取組と設定した課題との整合性を点検している。



▲▲こんな場面、ありませんか？▲▲

- ・情報源が広がりすぎて、どの情報を扱うのがよいか決めることができない。
- ・情報を整理した後、何を伝えればよいか悩んでいる。

そんなとき！

【大切なポイント】

- 初めに、収集した情報をどのように整理・分析すればよいかを考える。
- 整理・分析した内容について友達や教師とディスカッションを行うことで、新たな視点を得たり課題に対する考えを深めたりする。

具体的な実践例

- ▷ 時系列
 - 時系列にして変化などに気付いたり、到達点や手順を明らかにしたりする。
- ▷ 地図
 - 地図を活用して、事実や関係の把握、それらの特徴や傾向、偏り等を捉える。
- ▷ グラフ化
 - グラフに表し、事象の特徴を客観的に捉えたり、事実や関係を把握したりする。
- ▷ テキストマイニング
 - 得られた大量の文字情報から、全体の傾向や、関連の強い言葉を可視化する。
- ▷ 統計的手法
 - 収集した情報を統計的に整理・分析することで、事象の特徴を客観的に捉えたり、事実関係を推測したりする。
- ▷ 思考ツール
 - ベン図や各チャート、座標軸、ロジックツリー、フィッシュボーン、SWOT 分析など、目的に応じて情報を振り分け、性質や傾向、類型や概念を見いだす。

探究のプロセス全体の学習指導のポイント

学習過程の探究のプロセス化！ ↓

↑ 他者との協働や生徒の主体的な課題解決を促す学習活動へ！